

## 大学生のキャリア意識の育成 - 授業「キャリア・デザイン」の効果分析 -

岡田 龍樹

### はじめに

天理大学では、2005(平成17)年度から、「キャリア・デザイン(人生と職業)」という授業科目が始まった。学生の職業観の育成を目指して、進路部主導で導入された科目である。人間学部人間関係学科生涯教育専攻の専門科目に置かれているが、全学部の学生に開放され、自由選択科目として卒業要件単位に含まれている。全学的なプログラムとして総合教育センターに配置されることも検討されたが、当時生涯教育専攻が「生涯教育特論6」として職業教育に関する授業科目を開設していたことなどから、専攻科目として新設されることとなった。

この授業は半期2単位(週1回)の科目で、1~4年次生を対象としている。初回と最終回は授業担当者(筆者)が行い、それ以外はゲストスピーカーを招いて1回90分の講義を担当していただいている。ゲストスピーカーは基本的に天理大学の卒業生にお願いしているが、例えば、2008(平成20)年度の授業計画は、後掲のとおりであり、天理大学卒業者は、ゲストスピーカー11名中、8名である。

当初、「生涯教育特論6」を担当していた井戸和男教授(当時、生涯教育専攻所属)がこの授業を担当していたが、2008年度から筆者が引き継いでいる。

### 1. 「キャリア・デザイン」の受講者

2005年からの授業登録者は、表1のとおりである。

表1 授業登録者数

	人間		文		国際文化		体育	計
	宗教	人間関係	国文学国語	歴史文化	アジア	ヨーロッパ・アメリカ	体育	
2005	25(7.5)	103(30.8)	4(2.2)	4(1.7)	48(7.2)	76(9.3)	42(4.6)	302(6.7)
2006	29(9.3)	72(20.6)	1(0.6)	2(0.7)	38(5.4)	52(6.6)	33(3.8)	227(6.6)
2007	16(5.2)	45(13.0)	12(6.8)	3(1.3)	46(6.9)	53(6.9)	13(1.5)	188(5.6)
2008	13(4.2)	34(10.1)	12(6.7)	4(1.8)	81(13.1)	33(4.4)	30(3.6)	207(6.4)

( )内は在籍者(注)に占める割合%

2005年度開設のこの授業の受講資格(要卒認定)は、2003年度からの新カリキュラムでの入学者にさかのぼって適用されたので、初年度は1～3年次生が受講対象者となっていた。授業担当者が所属する人間関係学科の学生がつけかけ(103名)初年度(2005年)の登録者は300人を超えた。その後、過大クラス解消を目的に、原則として200人を限度とする規制が設けられたため、総数では200人前後に落ち着いている。

人間関係学科の登録者が減り続けており、専攻科目として新設された授業科目が全学的に周知され、均等化されつつある。歴史文化学科の登録者が少ない。ゲストスピーカーの人选等を考慮する必要がある。

2008年度について、登録者の学年別人数を見てみると、1年次生=49人、2年次生=29人、3年次生=79人、4年次生=50人で、3～4年次生が全体の6割を越えている。職業観の育成という授業科目設置の趣旨からすると、1～2年生の早いうちから履修して欲しいところであるが、就職活動の時期が迫って切実感がないと学生は「就職」を意識しないのであろうか。上述のようにクラス規模を限定するために、卒業までに時間の少ない4年次生から履修登録が優先されていることも1～2年次生の履修者が少ない要因かもしれない。また、男女比は、男=99人(47.8%)、女=108人(52.2%)であった(表2参照)。

## 2. キャリア意識の測定

天理大学生のキャリア意識を探るために、「キャリア・デザイン」の受講者に対してキャリア意識の測定を行った。

質問紙は、梅澤正(2007)による大学生に望まれるキャリアマインド確認のためのセルフチェックシートを利用した。このチェックシートは、学生が卒業後10年間、生活信条にしてほしいと期待する20項目からなっている。教職員が回答し洞察するために作られたものであるが、学生自身が自問自答するように問いを変えて質問紙にした。それぞれの項目に「非常に大切だと思う」から「まったく大切だとは思わない」までの5段階で評価し、5～1の数字(ポイント)を書き込んでもらう。

調査は、同じ質問紙を用いて同じ学生に2度おこなった。第1回調査は初回の授業(2008年4月10日)で、第2回調査は最終回の授業(同年7月10日)である。ともに授業時間内に配布して回収した。授業登録者は、表1のとおり207名であるが、第1回調査の回答者(すなわち出席者)は145人、第2回調査の回答者は186人であった。質問紙は後掲するが、各項目の平均値が第1回調査と第2回調査で比較できるように、2度の調査結果を1枚の質問紙に書き込んである。

初回の授業と最終回の授業では、出席者に41人の開きがある。最終回の授業では「受講して学んだことと私の職業人生について」記述させる試験を行い、受験を単位認定の条件としているため出席者が多くなった。授業の性質上、出席点を重視して成績を評価する

表2 2008年度の授業登録者数と調査回答者数

		登録者	第1回	第2回
総数		207(100.0)	145(100.0)	186(100.0)
性別	男	99(47.8)	69(47.6)	83(44.6)
	女	108(52.2)	73(50.3)	96(51.6)
	不明	-	3(2.1)	7(3.8)
学年	1年次生	49(23.7)	42(29.0)	47(25.3)
	2年次生	29(14.0)	23(15.9)	25(13.4)
	3年次生	79(38.2)	52(35.9)	61(32.8)
	4年次生	50(24.2)	24(16.6)	46(24.7)
	その他	-	-	1(0.5)
	不明	-	4(2.8)	6(3.2)

ことは周知されているので、初回の授業を休んだ学生がその後の出席状況も悪いわけではない。履修登録との関係もあるが、初回の授業の出席率が低いのは、昔から変わらぬ大学生の生態を反映してのことであろう。

梅澤は、キャリア意識を、『自己完遂への意志』、『仕事充実志向』、『自己発展志向』、『関係性の確立』としてとらえ、質問紙の項目はそれぞれに5つずつ対応するようになっている。

- ・ 自己完遂への意志をテーマにした項目；1, 3, 4, 9, 14
- ・ 仕事充実志向をテーマにした項目；2, 5, 13, 16, 17
- ・ 自己発展志向をテーマにした項目；6, 7, 8, 10, 12
- ・ 関係性の確立をテーマにした項目；11, 15, 18, 19, 20

また、20項目の中から、とくに大切だと考える項目を3つ選ばせた(後掲、質問紙参照)。

### 3. 天理大学生のキャリア意識

質問紙のすべての項目に「非常に大切だ」と思った場合、総得点は100ポイントなる。また、4つのテーマは最高点が25ポイントである。総得点の平均と各設問およびテーマの平均点を示したのが、表3である。

総得点の平均は、第1回調査では82.1ポイント(男:83.4、女:80.8)、第2回調査では83.6ポイント(男:84.3、女:82.9)である。比較対象がないので、総得点の数字が高いものか低いものかは判断できない。しかし、第2回調査の方がポイントが伸びており、男女ではいずれも男子が若干上回っている。

項目別の平均点は、第1回調査ではQ19「友人や知人と親しく交際し、交流する」(4.63)

表3 総得点と各設問の平均点

		第1回		第2回		
総得点の平均		total	145人	82.1	179人	83.6
		男	69人	83.4	83人	84.3
		女	72人	80.8	96人	82.9
各設問の平均	自己完遂志向	Q1	4.59	21.0	4.72	21.7
		Q3	4.18		4.31	
		Q4	4.02		4.10	
		Q9	4.02		4.35	
		Q14	4.20		4.25	
	仕事充実志向	Q2	4.31	19.1	4.33	19.6
		Q5	3.44		3.62	
		Q13	3.99		4.16	
		Q16	3.69		3.80	
		Q17	3.64		3.67	
	自己発展志向	Q6	4.15	19.8	4.33	20.5
		Q7	3.86		4.01	
		Q8	4.51		4.61	
		Q10	3.79		3.88	
		Q12	3.47		3.63	
	関係性確立志向	Q11	3.96	22.3	4.07	22.2
		Q15	4.56		4.58	
		Q18	4.49		4.47	
		Q19	4.63		4.45	
		Q20	4.58		4.59	

が最高点で、以下Q1「自分の人生に誇りと自信がもてる生き方をする」(4.59)、Q20「周囲の人びとの発言内容や気持ちに耳を傾ける」(4.58)と続く。得点の低かったのは、Q5「責任ある仕事やポストを任せられるようにする」(3.44)、Q12「自分がやりたいことに、時間と金を重点的に配分する」(3.47)、Q17「不断に職業的能力の開発につとめる」(3.64)である。第2回調査では、上位がQ1(4.72)、Q8「人間としての個人的成長もこころがける」(4.61)、Q20(4.59)で、下位がQ5(3.62)、Q12(3.63)、Q17(3.67)である。

また、とくに大切だと考える項目では、Q1を選んだ学生が2回の調査を通じてもっとも多かった(第1回調査:52.4%、第2回調査:59.2%)。その他、Q20(同、32.4%、32.4%)、

Q15「社会生活において、公共心や社会的マナーを守る」(第1回:30.3%)、Q19(第2回:31.8%)が、2回の調査でそれぞれ30%以上の学生から支持を得た項目である。

テーマ別の平均では、『関係性確立志向』のポイントが高く(同、22.3、22.2)、『仕事充実志向』が低い(同、19.1、19.6)。

学生はキャリア形成において、人間関係の確立を重要な課題と認識している様子が見える。社会に出たとき、自分のキャリアを伸ばしていく可能性が人間関係にあると思いつつながら、一方でそれが大きな不安になっていることが、『関係性確立志向』のポイントが高くなったことに反映しているのかもしれない。ただ、『関係性確立志向』の5項目の中で、Q11「自分のビジョン、使命感と役割意識をもって生きる」だけは、2回の調査を通じて他の4項目と比べてかなり低い(同、3.96、4.07)。この質問紙において、“関係”が必ずしも人間関係のことのみを指しているのではなく、社会との“関係”、社会との関わりにおける自己規律を含むようにデザインされているためであるが、Q15の“公共心”や“社会的マナー”に対してはまだ学生は親和的に反応するが、Q11の“使命感”や“役割意識”となると敬遠するようである。「自分の人生に誇りと自信がもてる生き方」(Q1)が大切なのは当然のことであるが、“誇りと自信”がどのようにして獲得されるのか、キャリア形成とどのように結びついているかが曖昧なのではないだろうか。

このことは、2回の調査とも「責任ある仕事やポストを任されるようにする」(Q5)が最低点であったことにもつながっている。『仕事充実志向』と『自己発展志向』のテーマがポイントを集められなかったところに、学生のキャリア意識の特徴を見出せる。

#### 4. 授業「キャリア・デザイン(人生と職業)」の可能性

今回、授業を通して受講学生のキャリア意識が育成されているかどうかを確かめることが調査の目的の一つであった。そのために、初回の授業と最終回の授業で、同じ質問紙を用いて、同一学生に調査した。しかし、出席者数に大きな開きがあった(最終回の授業出席者は、初回の授業から28.3%増)。毎回出席を取っていたので、授業にあまり出席していない学生が最終回の試験に殺到したのではないことは出席簿から確認できるが、2つの調査結果を比較検討することは厳密にはむずかしいかもしれない。そのことを前提とした上で、授業「キャリア・デザイン」の効果について言及してみたい。

表3および後掲の質問紙に記入された単純集計結果から、20項目のほとんどで、第1回調査(授業前)よりも第2回調査(授業後)の得点が上回っていることがわかる。なかでも最も上げ幅の大きかったのは、Q9「いろいろな人の、多彩な生き様について学ぶ」(4.02

4.53)である。先輩たちがリレー式に講義していくこの授業において、先輩たちの“キャリア”から、学生はまさに「多彩な生き様」を学んだにちがいない。ほかには、Q5「責任ある仕事やポストを任されるようにする」(3.44 3.62)、Q6「幅広い興味と関心をもって、知識の習得につとめる」(4.15 4.33)、Q13「仕事の中に、自分の潜在可能性をフルに

発揮する」(3.99 4.16)、Q12「自分がやりたいことに、時間と金を重点的に配分する」(3.47 3.63)、Q7「変化する客観的状況を、自分の生き方・働き方の中に取り込む」(3.86 4.01)などの上げ幅が大きい。ゲストスピーカーとして母校に帰ってきてくれた先輩たちが、さまざまな分野で苦勞し、それでも前向きに仕事に取り組んでいる姿が、学生たちには少なからず伝わったと考えてもよいのでないだろうか。学生たちは、まだ知らぬ社会に先輩として進む先輩方の轍(キャリア)に触れ、少なくとも自分が取り組むべき方向を読み取るうとしたと考えたい。

一方、ポイントを下げたのは、Q19「友人や知人と親しく交際し、交流する」(4.63 4.45)と、Q18「職場において良好な人間関係を築くようにつとめる」(4.49 4.47)の2つだけである。下げてはいるが、その幅は小さく、他の項目と比較すると、どちらも高得点を得ている。2つは『関係性確立志向』に属する項目であり、このテーマの合計平均も22.3から22.2へと4つのテーマの中で唯一ポイントを下げている。人間関係がキャリアにとって重要ではないということに思い至った、というわけではなく、人間関係へのこだわりと不安が多少なりとも解消された、と読む方がよいかもかもしれない。例えば、次のような学生の答えはそのことを物語っていると思うのだが。

松本さんの講義は深く心に残っています。転職を考えた時、相手の企業の方に「本当は仕事が嫌なのではなくて、人間関係が嫌だから転職したいのではないか」という指摘で大切なことを気づかされたと言っていました。その人との出会いがあったからこそ松本さんはいまの職業を変えなくてすんだのです。すごいせきだなあと思いました。上司との関係がうまくいかなかった松本さんは相手の立場になって考えるようになり、関係がどんどんよくなったそうです。私もこれはとても大切なことだと考えます。相手の思いに合わすことで、自分にはない考えを知ることができると思います。最初に相手を受け入れ、その後、自分を受け入れてもらうことで人間関係を上手に築くことができると思いました。(1年次生、女子)

誰もが、社会では当たり前のように苦勞していることを知り、解決のためのヒントを得るには、体験談に優るものはない。松本氏の講義だけではなく、来てくださった方々すべての話が、学生には貴重な経験であったのだということ確認し、あらためて諸先輩方に感謝する次第である。

## おわりに

この調査で天理大学生のキャリア意識は読み取れるだろうか。天理大学の在学生の男女比は6.3対3.7で男子の方が多い(2008年10月1日現在の在籍学生数から)、しかしこの授業の登録者の男女比は4.8対5.2で女子が多く、逆転している。女子学生に好まれる授業なのだろうか。総得点において男子が女子を若干上回っていた(表3)が、これが大学

全体の傾向を示しているわけではないだろう。学年別に比較したところ、1年生の女子は男子を1.3ポイント(第1回)から4.8ポイント(第2回)上回っていた。登録学生には偏りがあり、全学生に普遍化はできない。

また、梅澤の調査項目はうまく作られているが、これを用いた調査データを今回入手できなかった。キャリア意識調査の尺度として、今後妥当性や信頼性がテストされる必要があるだろう。

(注)

在籍者は、各年度5月1日現在の「学生に関する報告」(在籍学生数調)に基づいている。

### 参考文献

- ・梅澤正『大学におけるキャリア教育のこれから』学文社、2007。

### 平成20年度 キャリアデザイン(人生と職業) 授業計画

学期 春学期  
曜日 木曜日  
時限 第4時限 (午後 2:45～4:15)

回数	日 程	20年担当者	備 考	講義テーマ
1	4月10日	岡田 龍樹	人間学部教授	「キャリアデザイン」－職業と人生－
2	4月17日	井戸 和男	聖泉大学教授	「豊かな人生と充実した職業人生」
3	4月24日	山下 透	トップツアー(株) 新宿支店 専門課長	「コミュニケーション力とネットワークで実を結ぶ仕事」
4	5月8日	大熊 正博	学校法人天理大学 監事	「人生は挑戦」
5	5月15日	酒井 正敬	三和経営研究所 所長	「仕事があるから人生はおもしろい」－職業は人生の背骨である－
6	5月22日	岡本 昭彦	吉本興業グループ(株) よしもとクリエイティブ・エージェンシー 執行役員・制作センター長	未定
7	5月29日	中西 浩	東京書籍(株) 中国支社 第一営業課 係長	「なぜ、3年以内に3割以上の新入社員が辞めるのか?」
8	6月5日	宮村 誠一	大阪府立佐野高等学校 校長	「理想とする教師像」
9	6月12日	山本 恒夫	松下電工(株) 特需営業本部 海外特需プロジェクト営業企画グループ課長	「海外から見た日本と海外で求められる人材」
10	6月19日	西村 公恵	(株)読売新聞大阪本社 生活情報部 記者	「新聞報道の現場から」
11	6月26日	飯田 雅子	(社福)近江ふるさと会 近江第二ふるさと園施設長	「福祉の心を根づかせるには」－人を導ぶ心の育み－
12	7月3日	松本こころ	大和ハウス工業(株) 海外事業部	「世のため 人のため そして素晴らしい人生のために」
13	7月10日	岡田 龍樹	人間学部教授	「働くことの意義」－総括－

第9回は担当者の職務上の都合により、岡田が代わって講義した。

**キャリア意識に関する調査**

性別( 1. 男、2. 女 ) 学年( 1年・2年・3年・4年・その他 )

下の20項目について、卒業後の人生において、あなたが大切だと思う程度を、次の尺度に従って1～5の数字で記入してください。

- 非常に大切だと思う・・・・・・ 5  
 やや大切だと思う・・・・・・ 4  
 どちらともいえない・・・・・・ 3  
 あまり大切だと思わない・・・・ 2  
 まったく大切だとは思わない・・ 1

	初回授業	最終回授業
1. 自分の人生に誇りと自信がもてる生き方をする	1 ( 4.59 )	( 4.72 )
2. 生涯を通してやっていきたい、自分なりのライフワークをもつ	2 ( 4.31 )	( 4.33 )
3. 可能性を求めているいろいろトライしてみる	3 ( 4.18 )	( 4.31 )
4. 自分の持ち味をさがし、個性的な生き方をする	4 ( 4.02 )	( 4.10 )
5. 責任ある仕事やポストを任されるようにする	5 ( 3.44 )	( 3.62 )
6. 幅広い興味と関心をもって、知識の習得につとめる	6 ( 4.15 )	( 4.33 )
7. 変化する客観的状況を、自分の生き方・働き方の中に取り込む	7 ( 3.86 )	( 4.01 )
8. 人間としての個人的成長もこころがける	8 ( 4.51 )	( 4.61 )
9. いろいろな人の、多彩な生き様について学ぶ	9 ( 4.02 )	( 4.53 )
10. 当面のことにとらわれず、将来を見据えて生きる	10 ( 3.79 )	( 3.88 )
11. 自分のビジョン、使命感と役割意識をもって生きる	11 ( 3.96 )	( 4.07 )
12. 自分がやりたいことに、時間と金を重点的に配分する	12 ( 3.47 )	( 3.63 )
13. 仕事の中に、自分の潜在可能性をフルに発揮する	13 ( 3.99 )	( 4.16 )
14. 成り行きに流されないよう信念をもって生きる	14 ( 4.20 )	( 4.25 )
15. 社会生活において、公共心や社会的マナーを守る	15 ( 4.56 )	( 4.58 )
16. 挑戦しがいのある仕事を探し求める	16 ( 3.69 )	( 3.80 )
17. 不断に職業的能力の開発につとめる	17 ( 3.64 )	( 3.67 )
18. 職場において良好な人間関係を築くようにつとめる	18 ( 4.49 )	( 4.47 )
19. 友人や知人と親しく交際し、交流する	19 ( 4.63 )	( 4.45 )
20. 周囲の人びとの発言内容や気持ちに耳を傾ける	20 ( 4.58 )	( 4.59 )

とくに大切だと考える項目を3つ選び、下の( )に番号を書き入れてください。

( ) ( ) ( )